

スポーツ庁委託事業

『障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への
支援事業・民間企業等への啓発)』

障害者

スポーツ

推進

シンポジウム

「スポーツの力、共生の力」

障害者スポーツ シンポジウム進行

13:00 ~ 13:10 スポーツ庁挨拶

13:10 ~ 14:00 【シンポジウム—基調講演】
「東京 2020 パラリンピック競技大会とその魅力」
講師：中森 邦男（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

14:00 ~ 14:30 【企業調査結果報告】
・企業の障害者スポーツ支援の事例の紹介 ・企業アンケート
・ヒアリング調査報告

14:30 ~ 15:10 障害者スポーツ支援についての企業からのレポート
倉田秀道（あいおいニッセイ同和損保 経営企画部次長 スポーツ振興担当）
酒井伊織（株式会社 CAC Holdings 経営企画部 Enterprise Value Up
グループ グループ長）

15:20 ~ 16:00 【障害者スポーツ支援の海外事例】 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部
スポーツ健康政策学科 教授
ウースター大学（イギリス）名誉教授 田中 暢子

16:00 ~ 17:20 パネルディスカッション：「障害者スポーツの持続的な発展を目指して」
コーディネーター：公益財団法人身体教育医学研究所長 岡田 真平
パネリスト：
・日本体育大学スポーツマネジメント学部 准教授 横田 匡俊
・公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター 臼井 二美男
・栗栖 勇人（オイシックス・ラ・大地 株式会社
パラスポーツ支援プロジェクトメンバー）
・杉内周作（日本身体障がい者水泳連盟理事・アスリート委員長）
（(株) 富士通所属）

17:20 ~ 17:30 【振り返り、まとめ】

17:30 ~ 【意見交換会】
・Q & A ・登壇者との名刺交換 など

●司会進行● 桜美林大学准教授・田中千晶氏

※シンポジウムの内容は変更になる場合があります。

※プログラム監修：武藤 芳照（東京大学名誉教授）

スピーカープロフィール

●司会進行●

田中 千晶 (たなか ちあき)

現職：桜美林大学健康福祉学群 准教授

【略歴】

博士(体育学)、国立健康・栄養研究所 リサーチ・レジデント等を経て現職、元シンクロナイズドスイミング(現：アーティストックススイミング)日本代表選手

専門は発育発達学、運動生理学。幼児から高齢者までを対象にスポーツを含む日常の身体活動量および座位行動の評価法や変動要因に関する研究を実施している。国際機関 Active Healthy Kids Global Alliance および International Surveillance Study of Movement Behaviours in the Early Years における日本チームのリーダーを務める。



●基調講演●

中森 邦男 (なかもり くにお)

現職：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
日本パラリンピック委員会 参事

他の役職

- ・日本身体障害者水泳連盟 顧問
- ・アジアパラリンピック委員会スポーツ委員会 委員
- ・日本女子体育大学 非常勤講師
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事
- ・一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構 理事

●国際大会への参加

パラリンピック(夏8回、冬4回参加) 日本選手団団長 2010年バンクーバー大会、2012年ロンドン大会、アジアパラゲームズ(6回参加)



●企業からのレポート●

倉田 秀道 (くらた ひでみち)

現職：あいおいニッセイ同和損保経営企画部次長

【略歴】

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了。

スポーツ振興・障がい者スポーツ支援の指揮を執るとともに、所属するマラソン川内優勝選手をはじめ五輪・パラ選手の育成、マネジメントを担当。選手指導の経験も豊富で、コーチング、スポーツマネジメント領域に明るい。

2003年に早稲田大学スキー部監督に就任。フルタイム監督として同部を40年ぶりの日本一、通算9回の日本一に導くとともにノルディック複合の渡部暁斗選手(北野建設)らオリンピック選手を多数輩出。パラリンピックの村岡桃佳選手(トヨタ自動車)も教え子。日本オリンピック委員会強化委員、全日本スキー連盟クロスカントリー強化委員などを歴任。



●企業からのレポート●

酒井 伊織 (さかい いおり)

現職：株式会社CAC Holdings 経営企画部
Enterprise Value Up グループ長

【略歴】

IT企業や広告代理店などでの宣伝・広報・IR経験を経て、IT&ヘルスケアサービスを国内外で展開するCACグループの株式会社であるCAC Holdingsに2015年入社。広報・IRの責任者を務めるほか、2016年よりグループを挙げて取り組み始めたポッチャ普及支援活動の立ち上げに携わり、立ち上げ後は同活動を統括している。



●講演：「障害者スポーツ支援の海外事例」●

田中 暢子 (たなか のぶこ)

現職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部
スポーツ政策学科 教授
ウースター大学 名誉教授

【略歴】

英国ラバラ大学博士課程終了後、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部に

2013年に着任。専門は、スポーツ政策学・スポーツマネジメント。パラリンピックや精神障害者のスポーツなど、障害者のスポーツに関する国際比較研究が多い。公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事、一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟理事、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟理事、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参加などを務める。



●パネルディスカッション・コーディネーター●

岡田 真平 (おかだ しんぺい)

現職：公益財団法人身体教育医学研究所長

【略歴】

1999年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。以降、長野県東御市(当時、北御牧村)の保健・福祉・医療の総合施設、ケアポートみまきを拠点に地域の健康増進・介護予防・スポーツ振興等に深く関わる。東御市では、多様な組織が連携した「みんなの健康×スポーツ」実行委員会を組織し、ユニバーサルスポーツの普及・啓発に取り組んでいる。また、市内の標高1750m地点にある「GMOアスリートパーク湯の丸」では、障がい者アスリートの合宿受入もを行っている。



●パネルディスカッション・パネリスト●

横田 匡俊 (よこた まさとし)

現職：日本体育大学 スポーツマネジメント学部 准教授

【略歴】

1975年栃木県生まれ。三菱総合研究所(スポーツ事業リーダー)を経て、2013年4月より現職。三菱総合研究所では、スポーツを通じた地域活性化、スタジアム・アリーナ運営計画、トップアスリートのタレント発掘、日本財団パラリンピックサポートセンター機能設計など、スポーツビジネス・スポーツ政策に関する多岐に渡る業務を担当。著書に「オリンピック・レガシー 2020年東京をこう変える！」(共著、ポプラ社)、『奇跡の3年 2019・2020・2021 ゴールドen・スポーツイヤーズが地方を変える』(共著、徳間書店)など。



●パネルディスカッション・パネリスト●

臼井 二美男 (うすい ふみお)

現職：公益財団法人鉄道弘済会・義肢装具サポートセンター
義肢装具士

【略歴】

1989年、通常の義足に加え、スポーツ義足の製作も開始。91年、切断障害者の陸上クラブ「スタートラインTokyo」を創設、代表者として切断障害者に義足を装着してのスポーツを指導。やがてクラブメンバーの中から多くのパラアスリートを輩出。2000年のシドニーから、アテネ、北京、ロンドン、リオパラリンピックには日本代表選手のメカニックとして同行する。通常義足でもマタニティ義足やリアルコスミック義足など、これまで誰も作らなかった義足を開発、発表。義足を必要としている人のために日々研究・開発・製作・選手育成に尽力している。徳間書店)など。



●パネルディスカッション・パネリスト●

杉内 周作 (すぎうち しゅうさく)

現職：

- ・富士通株式会社 スポーツ文化ビジネス推進本部
- ・一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟 理事
- ・アスリート委員会 委員長
- ・技術委員会 テクニカル委員
- ・関東身体障がい者水泳連盟 理事
- ・日本水泳連盟 アスリート委員会 委員 などを歴任

【略歴】

小中学生のとき水泳に没頭。26歳(2000年)の時に網膜色素変性症と診断される。2001年に障がい者水泳の世界にデビュー。アテネパラリンピック大会では、400m自由形リレー3位をはじめ、400mメドレーリレー4位、100m平泳ぎ4位、100mバタフライ8位と銅メダル1つと3つの入賞を果たした。

2007年に現役を引退。以降、練習会を主宰し、次世代のパラアスリートを目指す選手のコーチを行っている。



●パネルディスカッション・パネリスト●

栗栖 勇人 (くりす ゆうと)

現職：オイシックス・ラ・大地パラスポーツプロジェクトリーダー

【略歴】

2016年よりウィルチェアーラグビー連盟(現車いすラグビー連盟)へのスポンサードを会社を通じて開始。選手の食事サポートを中心に、試合の盛り上げサポートや社内での競技認知向上に尽力。2019年より車いすラグビー連盟に意向となり、当事者としてパラスポーツを盛り上げる側に回る。



●プログラム監修●

武藤 芳照 (むとう よしてる)

現職：東京大学名誉教授

【略歴】

名古屋大学医学部卒業。整形外科医・スポーツ医として五輪水泳チームドクター、国際水泳連盟医事委員等を長年務めた。東京大学教育学部長、同理事・副学長、日体大総合研究所所長等を経て、2018年4月より現職。スポーツ医学、身体教育学の立場から、健全なスポーツの普及・振興や高齢者の転倒予防等に関する教育・研究・実践活動に従事。少林寺拳法連盟顧問、日本学生野球協会理事。

